事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法

			1 /%/20 7	及于切于木				十八	23 年	U	Э 4	23 <u>日</u>	TFD	<u> </u>
事務事業	■サービス部門 環境-10 バイオマスエネルギー回収施設整備事業													
No./名 称	口支援部門 スペーン アイガススエー・アイ 日本心民主論学系													
主管課	環境施設課			関連課	関連課環境部各課、都市整備部各課									
分野名	生活環境													
目標	一郎													
(目標値)	一般廃棄物に含まれる厨芥類(生ごみ)及び下水汚泥を集約処理し、エネルギーを回収する施設の整備。 													
人口等の	データ区分	一タ区分 22年度			21年度			20年度			備	考		
データ	人 口 177,161人			1	176,669人			176,484人			・各年4月1日			
	世帯数	78	3,812世帯	78	78,131世帯			77,430世帯			(住民基本台帳)			
	事業の対象者数													
運営資源	決算値(千円) 10,320千円		43	43,540千円						20年度までは「08 広域化				
状況(国・県)							計画の推進							
	(負担金等)													
	(一般財源)	10	0,320千円	43	43,540千円									
	人員配置数 2.0人				2.0人									
	人件費(千円)	件費(千円) 17,936千円			18,189千円									
	協働の													
	パートナー													
	事務事業 総事業費(千円)		3,256千円	61	61,729千円									
運営経費	市民1人当				349円									
	りの経費(円)		159円											
	対象者1人				<u> </u>									
	当りの経費(円)				_					<u> </u>			_	
ベンチマーク	団体名													
(県内外自治体													<u> </u>	
や民間団体と の比較値)													<u> </u>	
	<del> </del>	評価	年度	21年度	22年度			00年度	0.4	左曲		最終年	# /	在 庄 )
指標		6千1四				_	23年度		24-	24年度		技於牛.	支(	<b>平</b> 皮)
バイオマスエネルギー回収施設整備事業の推進		×	目標値	推進	推進									
◎目標を達成 ○目標に向かっ	oて前進 △横ばい ×後退		実績値	推進	事業の見	直し								
中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)														

①効率性 事業費や人件費に削減余地はないか。 ②妥当性 的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。 評価の視点 事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した 4公平性 受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。 ③有効性 場合影響があるか。 ⇒ 方向性 A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止 H22決算値 適切=〇、要改善=△(評価の視点を参照) 小事業名 評価 ④公平性 10,320千円 ②妥当性 ③有効性 □В ①効率性 ⇒  $\Box A$ □С  $\Box D$ ■F バイオマスエネルギー回収施設 般廃棄物に含まれる生ごみ等及び下水汚泥を集約処理し、エネルギー回収を行う 整備事業 事業の概要 施設の整備に向けた生活環境影響調査の実施、バイオマス事業負担金等。 ①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性 ПΑ □В □С ПΕ  $\Box$ D 事業の概要 ①効率性 ②妥当性 3有効性 ④公平性 ПΑ □в □С □D  $\Rightarrow$ ПΕ

③有効性

③有効性

④公平性

④公平性

⇒ □A

⇒ □A

□в

□в

□С

□С

 $\Box$ D

 $\Box$ D

ПΕ

ШΕ

事業の概要

事業の概要

事業の概要

①効率性

①効率性

②妥当性

②妥当性

中事業の評価結果

一十十十二四十二	<u> </u>								
事業診断(課長評価)									
H22年度の課題	・分別収集、運搬を含めた具体的な方法や経費	・山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備を推進していくため、周辺住民をはじめとした市民説明会を行う必要がある。 ・分別収集、運搬を含めた具体的な方法や経費の概算について検討する必要がある。 ・事業の実施に向け県との調整を進める必要がある。							
課題解決のための取組	・周辺住民をはじめとした市民説明会や事業の実施に向け県との調整等を進めたが、計画の見直が行なわれ、バイオマスエネルギー回収施設を整備 しないこととなった。								
未解決の課題	平成23年1月20日にバイオマスエネルギー回収施設を整備しないで、ごみを減量、資源化する方針を決定したため、施設整備に係る都市計画決定認 可事務及び下水道事業認可事務に係る手続等のバイオマス事業負担金は支出されなかった。生活環境影響調査は、図書の作成まで行った。								
今後の方針	ごみ処理基本計画に沿って、他の資源化やエネルギー利活用に関する技術動向などの情報収集に努めるとともに調査研究を進めていく。								
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	Е	※ 口事業完了	課長名	環境施設課長 小柳出 延之				

## 個別事業の概要

個別事業の概要							
小事業名		ザイムスコード			22年度決算値		
			生活環境影響調査	10,542	10,290		□見直し余地あり
		1384	<b>財廃棄物処理財団負担金</b>	30	30	■適切	□見直し余地あり
	主						
	主な						
バイオマスエネル	個別事業						
ギー回収施設整 備事業	加事						
<b>順争未</b>	業						
						□適切	□見直し余地あり
	÷						
	な						
	主な個別事						
	別						
	争業						
	未						
						□適切	□見直し余地あり
							二元世ンハギ5007
	主						
	主な個						
	個						
	別事業						
	業						
	-1-						
						□適切	□見直し余地あり
	主						
	主な個別事						
	別						
	事						
	業						
						□適切	□見直し余地あり
	土						
	主な個						
	別						
	別事業						
	業						
<b></b>						□,×™	
						□適切	□見直し余地あり
	<b>→</b>						
	土な						
	主な個別事						
	別						
	事						
	業						
l							